

オオトリゲモ

Najas oguraensis Miki

イバラモ科

石川県カテゴリー

絶滅危惧 I 類

国カテゴリー

該当なし

選定理由

稀産の種類で減少傾向にある。(現況:R-)

形態

類似種トリゲモには雄花の葯室が1室であるのに対して、本種は4室ある点異なる。また、トリゲモは三輪生状に葉を着けるが、本種は対生で、分枝した節では三輪生状となる。葉の長さはトリゲモで1cm程度、本種では3cm程度である。葉鞘の先端は切形で小刺がある。典型的なものは葉先が伸びており、群落のようすは、こんもりとした感じになる。茎の長さが1mに達することがある。本種には変異が多い。雌雄同株。

国内分布

本州、四国、九州、琉球に分布。中国にも産する。

県内分布

かつては中能登区から報告されているが、今回は南加賀区から報告された。

生態など

沈水性一年草。花期は7～10月。

生育環境

富栄養または中栄養の池沼。

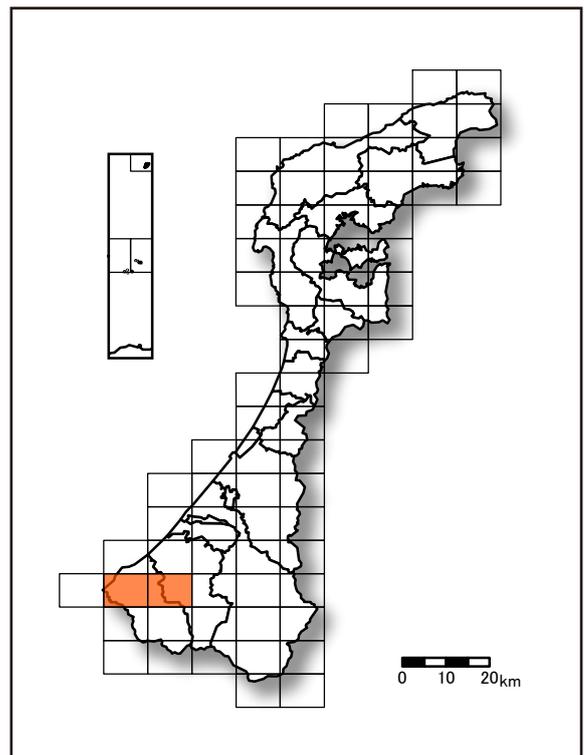
危険要因

池沼開発、農薬汚染。

特記事項

従来、本県でトリゲモとして報告されたものの一部に、オオトリゲモがふくまれていた可能性がある。

写真(図)はありません。



県内の分布